

教育長、教育委員と帯広市立川西中学校3年生との意見交換会 開催報告書

日 時：令和7年10月15日（水）11：50～12：55

場 所：帯広市立川西中学校 体育館

出席者 帯広市立川西中学校3年生 29名

教育長、教育委員 4名

教育長 広瀬容孝

教育委員 藤澤郁美、佐々木しゅり、柳川久、早川一之

次 第

- 1 開会
- 2 「おびひろ市民学」発表参観
- 3 意見交換会
- 4 閉会



意見交換（要旨）

●教育長、教育委員 ○川西中学校3年生

●学校は皆さんにとってどのようなところか。

○学校は生活リズムを整える場所だと思っている。

○社会で生きていくために必要なことを学んでいく場所であることはもちろん、友だちと交流したり、協力して何かを成し遂げたり、おいしい給食と一緒に食べたりすることができる場所だと思っている。

●小中学校を通して、思い出に残っている授業は。

○小学校6年生のカーリングの授業が一番思い出に残っている。普段体験できない事を、色々人の協力のもと体験できた貴重な機会だったと思う。

●これからの学校において期待することは。

○川西地区の自然環境だからこそ体験できることや、自分達が動物の住んでいる環境についてもっと知るべきだという思いがあるため、自然を活用した授業をしてみたい。

○小さな学校だからこそ強みを活かし、各学年との交流をさらに深める授業や行事を増やすことで、川西中学校としての新たな可能性や、新しい挑戦、地域に貢献することにつながると思う。

○LGBTQの生徒が安心して学校生活が送れるような支援体制についての教育委員会としての考えは。

●まず、何よりも、皆さんには、差別や偏見なくお互いが認め合う気持ちで友達と接してほしい。困っ

た時、悩んだ時に相談しやすい環境、気軽に相談できる体制を整えることが大切と考えている。また、制服はズボンとスカートどちらでも可であるし、ハード的なことだと、トイレの利用などについても専用のものはできていないが、それぞれが工夫しながら対応していただいている。

○受験生の私たちに何かアドバイスをもらいたい。

●記憶することが必要な教科は、時間をかけて覚えるしかない。ただ、頭を使って答えるべき問題に取り組むには、何よりもまず、規則正しい生活を送って、ベストな体調と頭の状態でテストに臨むことが大切。

●やらされていると思ってやるのではなく、自分で進んでがんばることが大切。ぜひ自分を信じてやってほしい。

○将来が不安で、今のうちにいろいろ考えておきたいと思っているが、自分の夢がはっきり決まっていない。教育長が中学生の時の将来の夢について聞きたい。

●中学校の頃、将来の夢は決まっていなかった。先は長いから、これからいろいろな経験をしていく中でじっくり考えていってほしい。

○自分は帯広市の魅力は自然が豊かで、おいしいものが多いところと思っているが、帯広の魅力はどのようなところだと思うか。

●都会でもなく田舎でもない住みやすさが魅力だと思っている。皆さんがこれから大人になって、帯広を支えてくれることを期待している。

●帯広の魅力は食料自給率が1,345%となっている「食」と皆さんのが実際に勉強されている「おびひろ市民学」だと思う。地元のことを知り、他の地域と比べ、帯広の将来について考えいるところが素晴らしいと思う。また、地場産のものを使用し、いろいろなメニューを考えられている給食も帯広の魅力の一つだと思っている。

以上